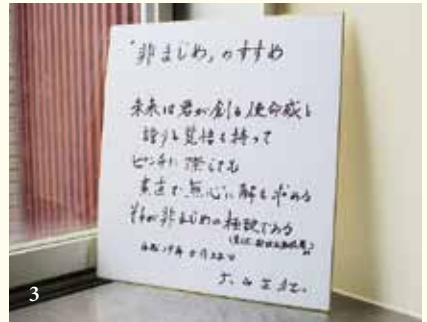


# 山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、  
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。  
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 小川キャンパスのイチョウ並木に立ち、学生時代を懐かしむ大山さん。教養課程の1年間通った場所だが、当時の面影はどこにも見当たらない。秋には黄金色に変わるこのイチョウ並木だけが往事を知る時代の証人。

2 大山さんが昨年、取締役社長に就任した「株式会社ユアテック」は、東北電力のグループ企業。電気設備工事、情報通信工事などに取り組んでいる。このユアテックの作業車は、特に東北や新潟エリアでよく見かける。

3 平成19年5月、工学部学生を対象に、「企業を担う先輩たち」の講義で大山さんは「電気事業の役割と課題」と題して講演。写真の色紙はその記念に書かれたもの。

## あこがれの“電気”一筋、技術屋に光を。 信念を曲げず、振りかざさず、企業のトップに立つ。

**非まじめの成果**

大山正征 株式会社ユアテック取締役社長(山形大学 経営協議会委員)

大山さんが子どもの頃はまだ電気の供給が不安定でよく停電した。すると、発電所のある方向に向かって電気の回復を願って拝んだという。また、電柱に上り復旧作業をする工事屋さんがとてもカッコよく見えた時代。幼少時代のこれらの体験を通して電気関係の仕事に就きたいとの意思が大山さんに刷り込まれていったに違いない。大山さんは山形市出身、兄弟が多かったこともあり両親の負担を考えて地元の大学に進学することを決めた。電気への思いから学部はもちろん、工学部電気工学科。地元東北で電気関係といえば東北電力、大学入学前から東北電力への就職を希望していたというから、まさに電気・電力へ一直線。教養課程の1年次は自宅から通い、2年次からは工学部のある米沢市で下宿や寮生活を

送った。学生たちのやや破天荒な振る舞いも笑って許してくれた当時の米沢の人々の懐の深さを懐かしく思い出すという。中学・高校と体操やハンドボールで活躍してきた大山さんだったが、大学ではスキー愛好会に所属し、楽しむことを最優先。授業そっちのけで蔵王に滑りに行ってしまいうこともあった。電力会社志望なのになぜか専攻は弱電系のメカニカルフィルター。就職先で役に立つことではなく、敢えて東北電力に行ったらできなくなることをしようと思ったという。まさに大山さんが教訓としている「非まじめ」(日本のロボット工学の権威、森政弘先生の著書で出会った言葉で、マジメでも不マジメでもなく、物事をあらゆる角度から見て受け入れられる柔軟性)の精神が感じられるエピソードだ。

卒業後は、人生設計通りに東北電力に入社。新潟支店勤務を経て本店技術部・企画部に配属になり、平成17年からは副社長に、そして昨年、株式会社ユアテックの社長に就任した。技術屋が経営の中枢を目指す道筋を作りたい、開きたいとの信念を見事に実現してきたことになる。そんな有言実行型の大先輩が、講義、講演、寄付などさまざまな形で本学を支援してくれている。「地域に開かれた大学として頑張っている様子に期待している」と。最後に後輩学生たちに“なるべく早い時期に自分が何をやりたいかを見つけること。それによって勉強にも身が入るし、人間的な魅力にもつながる”とアドバイス。人望と実績のある大先輩からのメッセージには確かな説得力がある。